

従業員だけでなく
 広く県民が楽しく
 健康づくりに取り組めるよう
 多彩にサポート

「一生涯のパートナー」として、
 できることを、まっすぐ。

第一生命保険株式会社 岐阜支社



POINT

- 健康管理アプリの活用で、毎日の歩数を数え、増やしていく取組みが定着
- 別の営業拠点の内勤職同士が自由に話せる場をオンライン上に創出
- 自治体と連携し、がん検診の大切さをPR

DATE

お客さまとお客さまの大切な人々の「一生涯のパートナー」として、人々の安心で豊かな暮らしの実現と地域社会の発展に貢献していくことを理念とし、昨今においては「保障」だけにとどまらず、「健康増進」「資産形成」「つながり・絆」にも重きを置き、さまざまなサービスを提供している。

〒500-8847 岐阜市金宝町1-3 岐阜第一生命ビル5F
 TEL.058-263-7151
<https://www.dai-ichi-life.co.jp/>

設 立 ●1902 (明治35)年9月
 代 表 者 ●代表取締役社長 稲垣 精二
 従業員数 ●《岐阜支社》515名 (男性22名・女性493名)



第一生命では、従業員自身が健康医療に高い関心を持つ必要があるとの認識のもと、健康増進を重要な経営課題と位置付け、経営陣から各職場まで貫いて健康づくりに取り組んでいます。岐阜支社では、生涯設計デザイナーが顧客を訪問する際、自治体が発行するがん検診や健康ポイント事業のリーフレットを配ったり、地元マスコミが主催するウォーキングイベント等に積極的に参加したりと、地域と連携した取組みを続けています。

職場近くに

検診バスを派遣

乳がん検診を受けやすく

健康診断の実施においては、特定健診、特定保健指導とも受診率100%を達成。肺がんと大腸がん、乳がん検診は受診率が90%を超えています。女性が多い職場であることから、乳がん検診は、各営業拠点の近くに巡回バスを派遣して、全額会社負担で受診できるようにしています。

ストレスチェックは集団定期健康診断までに提出するといった方法をとっており実施率は99%でした。



高ストレスと診断された場合、医師の面談だけでなく外部業者とも連携したサポートに取り組んでいます。

2018年に田中秀幸支社長が着任してからは、顧客に対して健康にまつわる情報をお届けし、健康・医療・介護等について語る立場として、従業員自身も自分の健康に留意し、積極的に健康増進に励むべきとの考えがより浸透。健康診断やがん検診の受診だけでなく、地域で催されるウォーキングイベント等へ、従業員が積極的に参加するようになりました。

健康管理アプリの登場で 毎日の歩数の確認が 習慣化

20年度定期健診時に実施したアンケートでは、運動習慣があると答えた人の割合は3割程度と、全国の支社と比較して低い状況でした。また、仕事でもプライベートでも車移動が多いことから、歩行習

慣のある従業員が少ないこともわかりました。

そんな中、21年10月に従業員向けに健康管理アプリが導入され、毎日の歩数や健康診断の結果の確認が簡単にできるようになりました。10月は社内の健康増進月間に加え、県の健康づくりチャレンジ月間2ヶ月ウォーキングチャレンジの開始月とも重なり、広く周知したことで、積極的に歩く従業員が一気に増えました。



10月2日には岐阜支社、県内14営業所で、国連の提唱する持続可能な開発目標(SDGs)を念頭に、町の美化を目的とした「SDGs労働組合ウォーキング」を初めて企画。従業員と家族の約400人が参加しました。11月3日に岐阜市の金華山で開かれた地元マス

「主催のウォーキングイベントには従業員の家族も合わせて約100人が参加しました。これらの取組みにより、全国で約100ある支社組織の中で岐阜支社従業員のウォーキング参加率は上から10番目、一人当たりの平均歩数でも50程度まで上昇しました。健康増進月間等が終わった後も、歩数計が付いたスマートウォッチや、スマートフォンを入れたポシエットをかけて社内外を歩いている従業員の姿は珍しくありません。岐阜支社の永井舞さんは「歩数を数えるようになって、より多く歩くようになりまし

て、早期発見し治療につなげられるようサポートをしています。17年には、県と第一生命が包括連携協定を締結し、がん検診のチラシ配布やスポーツ教室の実施などを通して地域全体の健康増進に力を入れています。

健康経営の推進について田中支社長は、「ウォーキングを定着させることはできましたが、これ以外にも、例えば食育や認知症予防など、年齢別にできることはたくさんあるはずです。弊社の掲げるビジョン『安心の先にある幸せへ』を胸に、従業員の健康増進にこだわらず、多業界とコラボレーションすること、県民の皆さんにこれまで以上に寄り添っていきたくて」と話しています。



た。現在の一日あたりの歩数は平均12000歩ほど。QOL(生活の質)を向上させるためにもこれからも続けていきたい」と話しています。

内勤職同士がオンラインで 「お困りごと会議」 会話を通して 不安の軽減と業務改善

運動習慣の呼び掛けというフィジカル面だけでなく、従業員のメンタルヘルスケアに関しても、岐阜支社独自の取り組みを行っています。各営業拠点に勤務する内勤職

は基本的に1人が2人で、もともと孤立しがちであったことから、これまで月1回、集合研修を実施して横の関係構築をフォローしてきました。しかし新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言などの影響で集合研修が開催できなくなり、さらにはリモートワークの導入で各営業拠点内の対面での関わりが減ってしまったことから、さらに孤立しがちな状況が生まれていました。



している松尾美香さんは「在宅勤務推奨日の開催というところで、ほとんどの人が自宅からノーマスクで参加していて、表情を見ながら話せるのが良い点です。不安を共有できたり、仕事の進め方を聞いて業務改善につながりたりと気持ちの面で大きな支えになっています」と安心感をにじませていきます。

がん検診の大切さを 自治体と連携してPR

第一生命岐阜支社では、13年の各務原市を皮切りに、県内の複数の自治体と連携協定を結び、生涯設計アドバイザーが顧客を訪問した際、胃がんや肺がん、子宮頸がんなどの検診や特定健診・特定保健指導を案内する自治体発行のリーフレットを配るなど、顧客が病気を



PICK UP

顧客だけでなく広く県民が、楽しく健康づくりに取り組めるようサポートしたいとの気持ちから、各店舗従業員が健康ポイント事業に参加してミナモ健康カードを取得しています。岐阜支社の勝野裕子さんは「50代後半になって、生活習慣の改善をしながら、ご褒美への期待があるので前向きに取り組める」と積極的に参加しています。20年度からは県の健康ポイント事業において、カードを提示するとサービス(特典)を受けられる企業・店舗の開拓にも注力しています。

20年度は、大垣ブロックが特に力を入れ、一年で約100店舗の協力店を獲得。21年度はその取組みは全県に広がり、上半期だけで118店舗の協力店を獲得しました。「この店舗でちょっとしたサービスが受けられたらうれしいな」というアンテナを張り巡らし、今日も協力店探しに奔走しています。

